



かほ木たより

「校是」に想う

校長 上今 常雄



私は赴任以来、本校の校是が、いつ、どのような経緯を経て制定されたのか、是非確認したいものだと思つています。私の高校時代には校訓や校是もありませんでした。

校是の中の「堅忍不拔」「質朴剛毅」の言葉は、大正十年に制定された旧制加治木中学の校歌に初めて出てきます。校内にある海音寺先生の文学碑には、「私の人間美学はここに形成された當時の校風は男はいかにあるべきかを私が教えた」とあります。先生の長女果子さんは、本校の百年誌に、「父の思い出」と題して、「加治木という町の風俗と校風から学んだものが、創立八十年時に校庭に建てられた文学碑の

リストートの年に向けて

PTA会長 植山 利博



加治木高校は昨年創立百十周年という大きな節目を経て、今年はリスタート、新たな歴史を刻む年となりました。これまで高加祭として実施してきた体育祭、文化祭を龍門祭と位置づけ、好天に恵まれ、盛大に開催できました。体育祭は二年生が優勝をいたしましたが、応援合戦では、三年生が貴様を示し面目を保ち、私は個人的にはホットとしました。

文化祭のステージ発表は、生徒の皆さんのがんばりが目に見えて伝わる内容で、生徒たちの意気込みが伝わる姿に感動しました。また、文化祭を通じて感じたことが、八月二十二三日にかけて愛知県で開催された第五十八

文に重なり心に残りましたので、紹介いたします。
仲間と一緒に力を合わせ、あるいは互いに競い合
う中でこそ求められるものがあります。
All for one, one for all. 息を合わせ、心を一つにしたその一
瞬の緊張感と美しさ、充実感あふれる姿。高校生と
いう人生の一時代、大いなる可能性を秘めた時代
皆で力を合わせることで、未知なる力が想像を超え
た力となつて發揮され、そこにかけがえのない紳意
識が生まれます。何かに打ち込み研究めようとしました
と、その経験はその後の人生の大きな糧となること
でしょう。

去る十一月十三日には昨年百十年記念事業の一環
として龍門講座が実施されました。先輩と後輩の紳意
識をつくることで、母校に対する深い思いや社会に生
きる強い意志を立てるキャリア教育の一助とする、
との観点から実施をされたものです。一年生のすべて
のクラスに現在各界、各層において活躍中の八人
の講師を迎え、それぞれの仕事を通じての職業観や

碑文になつたと思ひます。当時は年長者に好んで書る礼、言葉遣い、服装の規定等うるさく」と書いています。私は、旧制中学の歌詞から出て来る「堅忍不拔」、「質實剛毅」こそが、先生の男としての美学の中核だつたろうと思ひています。これらの言葉は、当時の加治木が島津義弘公からのお城下町としての気品と風格があつたことや加治木の町に育まれた旧制中学校設立以来の校風を象徴しているとも思います。

蛇足ですが、先生の生き方、作品等からして加治木という町の風土でもあつた「加治木ガラス」の氣性」「進取の氣性（慣例にとらわれず意欲的に新しいことにチャレンジする）」も先生の美学を形成している一つではないか、そう確信めいて考えたりしています。

創立八十周年を記念して、海音寺先生の文学碑と対照して全校生徒の朝夕仰ぎ見る位置に建立されているのが「若人の像」であります。その碑文には、「校はとなつてゐる三つの言葉（清新はつらつ」「貫朴剛毅」「堅忍不拔」）が順に

でできます。建立されたのが昭和五十二年ですから、その後校是として制定されたものだと思いが現状です。本校の場合は、校訓でなく校はあらわすのは、旧制中学以来使っている「堅忍不拔」が「質朴剛毅」が本校設立の根本精神・基本理念になつていることからもうなすべきところであります。ただ、私は海音寺先生の碑文も若人の像にある文言も男子生徒の旧制中学の氣質を強く受けているように感じています。そこで、加治木高等女学校の校風等どうであつたか、あらためて見てみました。高等女学校同窓会の名称は、「幽芳会」と称し、「幽芳」とは蘭の花のように気高く優しく、逆風にめげない芯の強い気立ての良さの意味が込められています。女子生徒に対しては、「気高く優しくあれ、逆境にめげない心をもて」も校是の一つとしていいのではないか。

体験談 人生観などを話していただきました。生徒たちは、高校の先輩の話として大変身近に感じしながら実社会の厳しい現実や、企業や職場の実態の雰囲気を感じ取っていました。私は一年五組の国民金融公庫京都支店長の有川力雄先生の「お金の話」という講演を六十分間聞かせていただきました。紙幣の製造のシステムや、日本銀行の業務の役割、現在のサブプライムローン問題に端を発する世界的金融破綻、家庭でのお金の使い方、振り込め詐欺への対応の仕方など、お金につわる多くの話に、あつという間の六十分でした。最後に企業が求める人材は、やる気があつて人の嫌がる些細なことでも率先してやる、簡単に夢をあきらめない人、知識だけではない人間力などの話に生徒たちも感心したところが大きかったようです。今後も、同窓会の皆様の、物心両面からの支援をいただきながら、このような取り組みが続けられることを願うものです。

第 17 号
2008.12.24
加治木高等学校
P.T.A.発行

〒899-5214
鹿児島県姶良郡加治木町
仮屋町211番地

校長・PTA会長あいさつ	P 1
学校行事の感想	P 2
龍門祭・研修視察ほか	P 4
部活動大会入賞記録	P 6

体育祭の感想

百十一年を迎える高祭が龍門祭となつて初めての体育祭が、九月二十日(土)に開催された。心配された台風の影響もなく、当日はすばらしい秋空に恵まれ絶好の体育祭日和となつた。

黄組三百二十二名、赤組三百十六名、三百十三名が堂々たる行進で入場。「Re-start」僕達の歴史の1-1-1ページ目を」というスローガンのもと、熱い戦いの火蓋が切られた。1-1-1を人文字で表現した迫力ある高校生体操。グラウンドいっぱいにきらめく若さを表現したダンス。そして学級対抗リレーでは、二年四組が六年ぶりに新記録を更新した。

応援演技においては、元氣あふれる黄組を筆頭に、まとまりがあり、一糸乱れることなく演技を見せた赤組。さすが技術とスピードで他を凌駕した気迫あふれ



体育课 《毛毛虫》

体育祭 くも合戦
徒たちの真剣な眼差し、喜び、笑い、涙
ゆる感情がこの一日に凝縮されグラウンド
にいた全ての人々の心の深部まで
でしみこんだに違いない。加治木高校
高校体育祭を見るのは七回目である
が、何度も見ても深い感動を味わ
い、本当にすばらしいと感じる。
勝利は自信につながり、敗北は「か
て」となる。この経験が今後の生
活において、「糧」となってくれ
たら幸いである。

最後に体育祭成功のために、こ
協力いただいた全ての方々に深く
感謝申し上げます。

体育科 富岡 則

文化祭を終えて

今年の文化祭は生徒会の発案により、
高祭」を「龍門祭」に改め、「龍門祭文化」と銘うつて催された。スローガンは「五
SMBT」(僕達の歴史の111ページ目を)
昨年創立百十周年を迎え、次の節目に向
けた新たな出発に生徒たちの熱き想いを
て考えられたものである。全体を通して
テーマ、展示の両部門ともに加高生の才
結集されたレベルの高いものであつたと
ステージ部門では初日は、英語スキッ
ピディペー卜、図書委員によるブツ
クトーク、そして恒例になつてゐる
加治木養護学校生のスピーチなどが
あり、ステージが引き締まつた。二
日目は新体操部、空手部、演劇部、
コーラス部、吹奏楽部が、日頃の練
習の成果を十二分に發揮して、会場
の雰囲気を盛り上げてくれた。また
クラス合唱やダンスも、パフォーマ
ンス等に趣向を凝らして、パワフル



文化祭2年1組スケッチ



大昭萌希さん（3年）の作品

ガンのとおり、新外へ向けて進め
だけにとどまらず、
全校生徒が一丸となつて取り組
めたことが、今後、学校生活を
活性化し、高めていくことにつ
ながつていくことだらう。

で華やかなステージを作った。その上、担任の先生方の参加もあり、クラスが一丸となつた姿に魅了された。

展示部門では、美術部、書道部の力作が龍門会館に展示され、一日だけではもつたない気がした。その他の文化部の展示もクラス全員が心を一つに取り組んだ様子がうかがえ、ハイレベルなものが多かつた。

今回の文化祭は、スローガンのとおり、新たなる加高の歩みを、加高だけにとどまらず、

芸術科 下茂大二郎

文化祭 ~Re:start~

生徒会長 上園歩美

第一回 龍門祭

三年二組 井下慶祐

A group of students in traditional Chinese clothing, including black robes and white shirts, are performing a synchronized dance or martial arts routine outdoors. They are holding long, thin sticks or flags. In the background, there is a blue flag with a white dragon emblem and several white tents.

やるやく Re :
start ~JULYう
スローガンにふさ
わしいすばらしい
体育祭だったと思
います。

長をさせていたいたいたことは、かけがえのない思い出であり、一生の宝物です。応援団として三年紫組のみんな、本当にありがとうございます。一緒になつて体育祭を盛り上げてくれた一・二年生、競技・演舞ともにすばらしく、それぞれの胸のうちだけでなく、保護者の方々にも感動を与えるような体育祭だったのではないかでしようか。龍門祭として新たな一ページを刻み、加治木高校がさらなる発展を遂げることを願っています。

最後に、体育祭を運営して下さった先生方お越し下さった来賓、保護者、地域の方々、そして一緒に龍門祭を作った加治木高校のみなさん、本当にありがとうございました。

今年も九月五日から六日にかけて文化祭を行われました。毎年、加治木高校の文化祭は、学校の授業では得られない団結力や創造力を培い、達成感や感動を通して人間として一歩成長することができるような気がしました。今年は高加祭から龍門祭へと名前を変え、たな百十一年目を迎えた加治木高校にふさわしい文化祭となりました。

夏休み後半になり、文化祭が近づくと冬ラス出し物の準備に追われとても忙しそうしているのをよく目にしました。その取り組む姿は文化祭を成功させようと一生懸命で、とても頼もしく思いました。一人一人が文化祭への思いを注いだ出しものは、毎年少しづつ質が上がり、今年も大変素晴らしい作品がたくさん登場しました。たった二日間ですが、



平成二十年度

方々によって成り立っているのか、龍門祭だったのです。そして久々に、人という字は支え合わなければ倒れてしまうと聞いた話を思い出しません。人とのふれ合い、人ととの協力を感じることができた今年の文化祭は、青春時代の私たちに非常に大切なことを教えてくれました。これからも全校生徒で力を合わせ、一度きりの高校生活で、大きな感動を生み出していくましよう。



先輩が後輩に贈る龍門講座（11／13開催）
講師 健康サポート研究所 原宿南
クリニック勤務 最勝寺久和先生
とても分かりやすい
為になる講話でした。
講師の先生は、ポジティブな精神力でたくさん
の人にチャレンジされていました。何をするにも
遅いことはないのだな
あと感じました。

講話の途中に講師の先生が用意してください
つた質問は、自分の考えていることを改めて
見つめ直す良い機会となりました。自分の「価
値観」「役割」「したい事」など、普段の生



大学出張講義（7／7開催）
講師 熊本大学工学部 長谷川麻子先生
「ドイツ」という国
は私の中では高貴なイメージがある。写真を通して見る建築物の数々は、とても美しい。そんないいとくの建築物には、景観を壊さないようにするための様々な規制があると私は思っています。しかし、意外にも大きなビル群もあり、抽象的な建築物も存在することに驚いた。また、近年環境保全に力を入れているドイツでは、建築の分野においても同様であり、材料の消費を減らし、快適な空間を作る工夫がなされているそうだ。中でも私の脳にビビッドとされた単語は「呼吸する材料」であった。これは水と空気の両方が通り抜けることができ、材料も一般的のものよりも減らすことが可能となる。高温多湿の鹿児島の気候には合っていない。

人生を有意義に生きていくためのヒント

二年二組 桃木野 このみ

活ではありません。『発見・計画・実行』は、どれも必要な要素なので、これからはもう少し真剣に考えてみたいと思います。

「一番大切なことは、一番大切なことを、一番大切にする」という言葉が、強く印象に残っています。私は、自分の思うことを日々、気持ちを抑えて表現することが出来ません。この言葉を聞いて、相手のことを考えて自分の気持ちを抑えることも大切だけど、自己主張も同じくらい大切なのだと実感しました。

この講話と講師の先生の生き方を参考にして、後悔しないようにしたいと思います。素晴らしいお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

環境に配慮したドイツの建築

二年七組 永元健太

いだらうが、ドイツの気候には適しており、家屋の壁などに使われるらしい。しかし、そんなドイツの建築にも問題はある。講義の中ではあまり建築に使えない竹材が多いことや、大きく成長しすぎた杉は木材として使用出来ないことが挙げられた。私の祖父母は竹山と杉山を所有しており、特に杉については木材としての利用価値は薄れています。ほんどの野放し状態となっている。

環境問題が大きな注目を集めることで、環境問題をクリアすることが求められている。地球規模での活動が提唱される中、ドイツの環境配慮にはとても感心した。また講義を通して、新たな知識との遭遇が自分の幅を広げることを感じた。三年生になる前に、自分が深く知らなかつた分野にアンテナを向けて、受信出来たことは、私にとって貴重な体験となつた。これからも自分の幅を広げて、人生の進路を決めるための「材料」としていきたい。

勤労体験学習

二年二組 有馬くるみ

さる十一月六日に勤労体験学習に参加した。

役場職員の方々による加治木町のゴミの現状

についての講話の後、加治木町副町長から激

励の言葉をいただき、私たちの学級は網掛川

児童公園の清掃活動を行つた。

学校から公園へ向かう途中もゴミ拾いを行

う予定だったが、全くその必要はないほど街

並みは整然としていた。加治木町に住む方た

ちがこの町をどれほど大切にしているのかに

気づかされた。雑草を抜き始めるとファンス

の向こう側から「高校生ですか。」と声をか

けられた。私は挨拶をして加治木高校の一年

生全員で町内の清掃活動をしていることを伝

えた。するとそのご婦人は感心したように笑

顔でうなずいて「有り難うね」とおっしゃや

れた。その時私は急に自分が恥ずかしくなつた。

私は行事の一つとして何気なく今回の活動に

取り組んでいた。しかしこんなささやかな活

動に感謝の言葉をいただけるとは。この温か

い一言が私たちの励みとなつた。いつの間に

かたくさんのゴミ袋が一杯になり、網掛川か

ら吹き渡る風が汗ばんだ頬に心地よかつた。

今回の体験を通じて、私たちの周りにはす

ぐに取り組むことのできる社会貢献があるの

だと実感した。加治木高校で大いに学ぶと同

時に、それを生かす

場としての地域社会

の中での日常をもつ

と大切にしたい。公

園からの帰り道、そ

んなことを考えながら

友人たちと一緒に歩いた。

「清掃を終えた公園

で子どもたちが楽し

く遊んでくれるとい

うね」と話しながら。



私は今回、本場の『ゴスペル』というものを初めて聞いたが、どれも本当に明るい歌ばかりだった。昔のむごい奴隸の話を聞くと、本当に信じられなかつた。奴隸として働かされている人々は、家族や友人が目の前で殺され、どんなに悔しかつただろうかと思うと、心がとても痛くなつた。マリさんの感情のこもつたお話は、私達に悲しみや怒り、喜びや希望など、様々な気持ちにさせた。パリスやジエームスのおじいさん達も、一生懸命に生きて子どもを生み、育てたので、今のパリスやジエームスさんは今、そもそも平和そうな国だが、昔の悲惨な過去があつたことを忘れないで欲しい。肌の色や地域の違いで人を差別してはいけない。このことははじめに関しても同じ部分がある。

この講話と講師の先生の生き方を参考にして、後悔しないようにしたいと思います。素晴らしいお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

芸術鑑賞会を終えて

二年二組 上園歩美

る問題を起こしている。今を生きる私たちにとってこのことは非常に重要なことです。そこでこの問題について深く考え方をマリさんはして下さつた。ミドリさんの踊りは、歌全体を表現していて、私たちもダンスの授業でミドリさんの様にのびのびと踊りたいと思つた。だいちゃんのピアノに合わせて皆で踊つたり歌つたりしながら、全員で会場を盛り上げて、一つになつたときは本当に気持ちよかつた。最後に近づくにつれてみんなの気持ちも最高潮に達して、本当に心に残る芸術鑑賞会だつた。メンバーの皆さん一人一人の個性で、LOVEとRESPECTで平和を作ることを教えてくれた。私もコラス部として学びとることが沢山あり、人間として教えられることが沢山あった。私は日本人だが、アメリカの奴隸制度のあつた時代を忘れないで、いつまでも平和を願い、部活を通じて山の人々の心に届く歌をうたいたい。





勝てば自信！
負けても糧！

目標に向かって
応援団に取り組む姿に、親としては複雑な心境でした。でも心をひとつに演舞する皆の姿に感動し、机上の勉強だけでは出来ない生きた学びを経験したのだと思いました。怪我をしがちな息子が無事に大役を果たせた事への安堵と支えてくださった先生方への感謝の思いでいっぱいです。本当にありがとうございました。貴重な経験をバネに、今後は受験に向かう子ども達を私たち親が応援していく番です。

(体育祭応援団長保護者秘話)

3年P 井下登喜子

大会新！ 2-4 学級対抗リレー

三色に誓う！





宮崎大学



「山笑う」

▲広いキャンパスを歩く保護者
宮崎大学は市街地から約10km!
バイク通学者が多い

春が来るのである。
は無く親の方かも知れない。
肌寒さを感じる秋、受験の季
節は近い。そして、「山笑う」

はゆつたりとした環境で自分を喜一憂するのは、子どもたちで学生たちはひとつ空間として学ぶ事が出来る。これから入試の洗礼を受け内と合わせて見ると、学生たちが広いキャンバスに多くの施設が点在していた。ビデオの大学案のコンパクトな建物に集約されていった。街とキャンバスの中、市街地のコントラストが印象的だ。

最初の宮崎大学は、郊外型の社会の中で何を基準に子どもたちは大学を求めるのか。

都会で街の刺激を受けて学ぶのが良いのか、地方で豊かな自然の中で学ぶのが良いのか。そんな想いの研修だった。情報化社会の中で何を基準に子どもたちは大学を求めるのか。

二つのキャンパスを歩いて

二年P 研修部長 菊池龍夫

宮崎視察日程

日程 10月8日(水)

8時15分学校出発

参加者 先生5名

保護者 80名

加治木高校・宮崎大学

・宮崎公立大学

・昼食(宮崎観光ホテル)

・綾ワイナリー

・加治木高校17時40分着

(駐車場は養氣館周辺)



みやざきを食しました！
昼食(宮崎観光ホテル)
1500円の和食

研修視察

秋の散策 宮崎へ

～アンケートから～

宮崎大学

- 詳しい説明でとても分かりやすかった
- 就職率の高さに驚いた！
- 市街地から離れて少し寂しい感じがした

宮崎公立大学

- 学生が明るく楽しそうに見えた
- 住宅街にあり便利！
- 学校の説明がほしかった

宮崎研修を通して～

- 両方の大学とものびのびした環境の良いところだった
- 一人では行く機会がないだけに、とても勉強になった
- 学生に学園生活の様子も直接聞いてみたかった
- 学食を食べてみたかった
- 保護者同士の会話が有意義だった
- ガラス工芸の素晴らしさを知り感激した

2008加治木高等学校
芸術鑑賞
10月17日(金)
午前午後2回公演

ハートフル★ソウルフル

今年の芸術鑑賞は「ゴスペル」。音楽の力は凄いですね。
深い知識もなく参加しましたが、とにかく感動しました。



♪楽しかった
♪鳥肌が立つた
♪心がフルえた！ウーンこれが
ソウルフル！

LOVE & RESPECT

第14回

JoOoB (Joy of Books)

～室内楽にのせて贈る本の楽しみ～

11月15日(土) 13:00～15:30

加治木高校図書室

ブックトーク

上今常雄校長「駕籠と同時代に
生きた光闘院貞姫」



